

四十組之記

月

三 種 加 香	杜 律 香	少 客 香	替 花 月 香	六 歌 仙 香
三 千 年 香	住 吉 香	五 方 香	琴 玉 香	扇 平 香

7多9
1.338
30



明 珍
1338
卷 30

三十一卷
三十二卷
三十三卷
三十四卷
三十五卷
三十六卷
三十七卷
三十八卷
三十九卷
四十卷
四十一卷
四十二卷
四十三卷
四十四卷
四十五卷
四十六卷
四十七卷
四十八卷
四十九卷
五十卷



四十組之內 月

六歌仙香

扇阜香

香花月香

琴玉香

山客香

五方香

杜律香

住吉香

三種加客香

三千年香

三寶山香

三千年香

林野香

針香

山香

山香

香月香

琴正香

六層山香

麻草香

四十餘之内月



後水尾院御製

六歌仙香

香六種

銅みまじりて 一言に傳内を成

月也あぬりて 右同り

家産のりて 右同り

吹くたもて 右同り

思ひてもて 右同り

色くもて 右同り

右試読りて出香六色打交ニ角ニ色九短歌

試合名乗代書附出も双角ハ歌一有本

一短角ハ五文字と書るハ不角ハ五文字出香

五文字斗と七先出香もむ角ハ九文字ハ双角

尚不知る記の表く修とる角歌左のそ

僧正遍昭

朝みも糸ももけく白鳥を玉まぬけ春の柳の

在東業平

月あめもさびしうの春のめ影をしのびて

文正康秀

吹く秋の草木の音もねむ山をのぼる

喜撰法師

我流都のりくきもさびしうをさほ山をのぼる

大伴里主

思ひ出さぬ村の影の鳴るる人なほ

小野小町

色えらうらみよの世の人の心の底をのぞく

江原たのこ

相

月

花

色

香

名

六歌仙香記

色

香

名

色

香

名

色

香

月日月香

出香名乗

まろくそな

右試みく

月

右月

花

色

念珠たのむ

六教仙香記

世尊

母

香の味は... 念珠... 念珠... 念珠...

名... 念珠... 念珠... 念珠...

替花月香

香二種

花... 三... 包... 内... 包... 試...

月... 右... 同... 以...

右... 試... 燒... 出... 香... 四... 包... 打... 交... 内... 二... 包... 裝... 殘...

二色とす多し中終く名乗紙書附書し
花月の出紙花月と出れハ腹書月花と出れ
うれハ逆書花と出れハ花と書月
出紙月と書右ハ記紙の付り札
す

札の表常の
札の裏左の

十始花後月の
嵐腹の札

六始月後花ハ
嵐逆の札

花とハ
花の札

月くハ 月九

右何れ札の裏文字く一人系四枚了
十人系四枚枚了きくくたのそ中月

替花月香記

花月

牡丹

嵐頂

叶

白菊

月

一

月日

出香名集

子何くそ准まへ

香の多し和耶妻の文子く二人本四枚
十人本四枚取すしきうし決香の果

白菓
紫丹

瓜
替花月香記
爐頭

瓜
十

多敷太ウ客香

和香四種

下下下

赤香

信五

月

ウ春香ウ記

ウウ記

一客二ウ三ウ

名一ウ二客一ニウ客

正五四
傍魚四

名一客二ウ一ニウ客

名一客二ウ一ニウ客

ウウ記

香入

杜子

張氏

孫

ウチノ香
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百ノ百一ノ百二ノ百三ノ百四ノ百五ノ百六ノ百七ノ百八ノ百九ノ百十ノ百十一ノ百十二ノ百十三ノ百十四ノ百十五ノ百十六ノ百十七ノ百十八ノ百十九ノ百二十ノ百二十一ノ百二十二ノ百二十三ノ百二十四ノ百二十五ノ百二十六ノ百二十七ノ百二十八ノ百二十九ノ百三十ノ百三十一ノ百三十二ノ百三十三ノ百三十四ノ百三十五ノ百三十六ノ百三十七ノ百三十八ノ百三十九ノ百四十ノ百四十一ノ百四十二ノ百四十三ノ百四十四ノ百四十五ノ百四十六ノ百四十七ノ百四十八ノ百四十九ノ百五十ノ百五十一ノ百五十二ノ百五十三ノ百五十四ノ百五十五ノ百五十六ノ百五十七ノ百五十八ノ百五十九ノ百六十ノ百六十一ノ百六十二ノ百六十三ノ百六十四ノ百六十五ノ百六十六ノ百六十七ノ百六十八ノ百六十九ノ百七十ノ百七十一ノ百七十二ノ百七十三ノ百七十四ノ百七十五ノ百七十六ノ百七十七ノ百七十八ノ百七十九ノ百八十ノ百八十一ノ百八十二ノ百八十三ノ百八十四ノ百八十五ノ百八十六ノ百八十七ノ百八十八ノ百八十九ノ百九十ノ百九十一ノ百九十二ノ百九十三ノ百九十四ノ百九十五ノ百九十六ノ百九十七ノ百九十八ノ百九十九ノ百十

杜律香

杜子

張氏

外一二三

客として一色の羅を袷に成す

右試着る先杜子夏張氏の二包おき内二包
取中後記紙に附扱一二三客の香と
左のまゝに結合

一二二結八 三三二一結八 ウ三 二結八

一ウ 二結八 三三二一結八

八結八の内一二三三二一ウ三 一ウ

四結八のまゝのまゝおき一結八つて右

中おきて始杜子夏張氏の内二包残り房と柱又

一二二二三 ウ三 一ウ

右の四巻の抄文一巻の後に下するなり始の行香
を同香とすなりたの合て詩の句とす附出さる
るなりたの

一六 春山無伴獨相求 伐木丁丁山更幽

二六 澗道餘寒歷 氷空石門斜 日到林丘

ウ六 不食衣識 金銀氣 遠冥朝 看麋鹿 遊

一ウ六 乘無香然 逆出宛 對君疑 是汝 塵舟六

右杜律未一の詩よりして紙外より香教本二包

より中香内十六包より本二包の内試四包

外十包より右の内十二包より残り六包ハの

新古今記の表より入る香のたのしみ

杜子春 張氏 洞窟 春山 魚伴 稻相 永

杜律香 杜子春 張氏 洞窟 春山 魚伴 稻相 永

名 張氏 杜子春 洞窟 春山 魚伴 稻相 永 六

名 杜子春 張氏 洞窟 春山 魚伴 稻相 永

月日 出香 名乗

まろく 光 燭 まで へ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '月日', '出香', and '名乗'.

此方は... 香... 花...

杜律香... 花...

花... 香...

花... 香...

花... 香...

所利... 三種加客香... 香...

三香四種... 香...

三... 香...

花... 香...

三... 香...

客

客

右出香十包お灸柱出ま寸
とめを二種のものを三種のものを
三種のものを客として名乗れり
記録より毎日の様子を記したる考

の

二

三

三種加客香之記

ウニウニニウウニ

名

ウニウニニウウニ

七

名

ウニウニニウウニ

全

文

月日 出香 名乗

きうく 乞は 頃 年 山 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

三 針 四 香 香 香 香

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

扇 年 香

香 四 櫃

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二



月日

出香

光緒二十一年

其拾一扇阜香

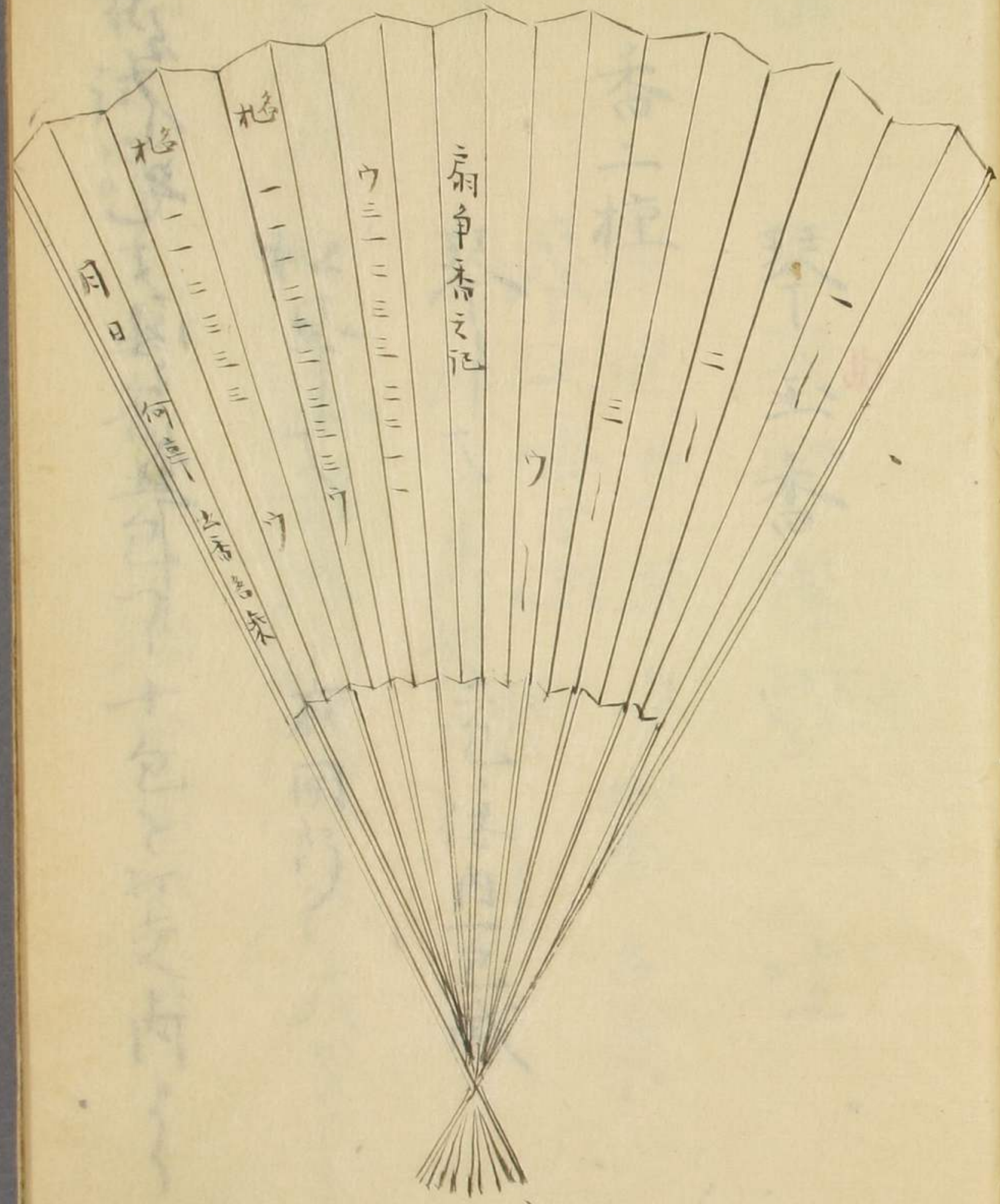
備香四種

一 一 一 一 四色德月一包試一

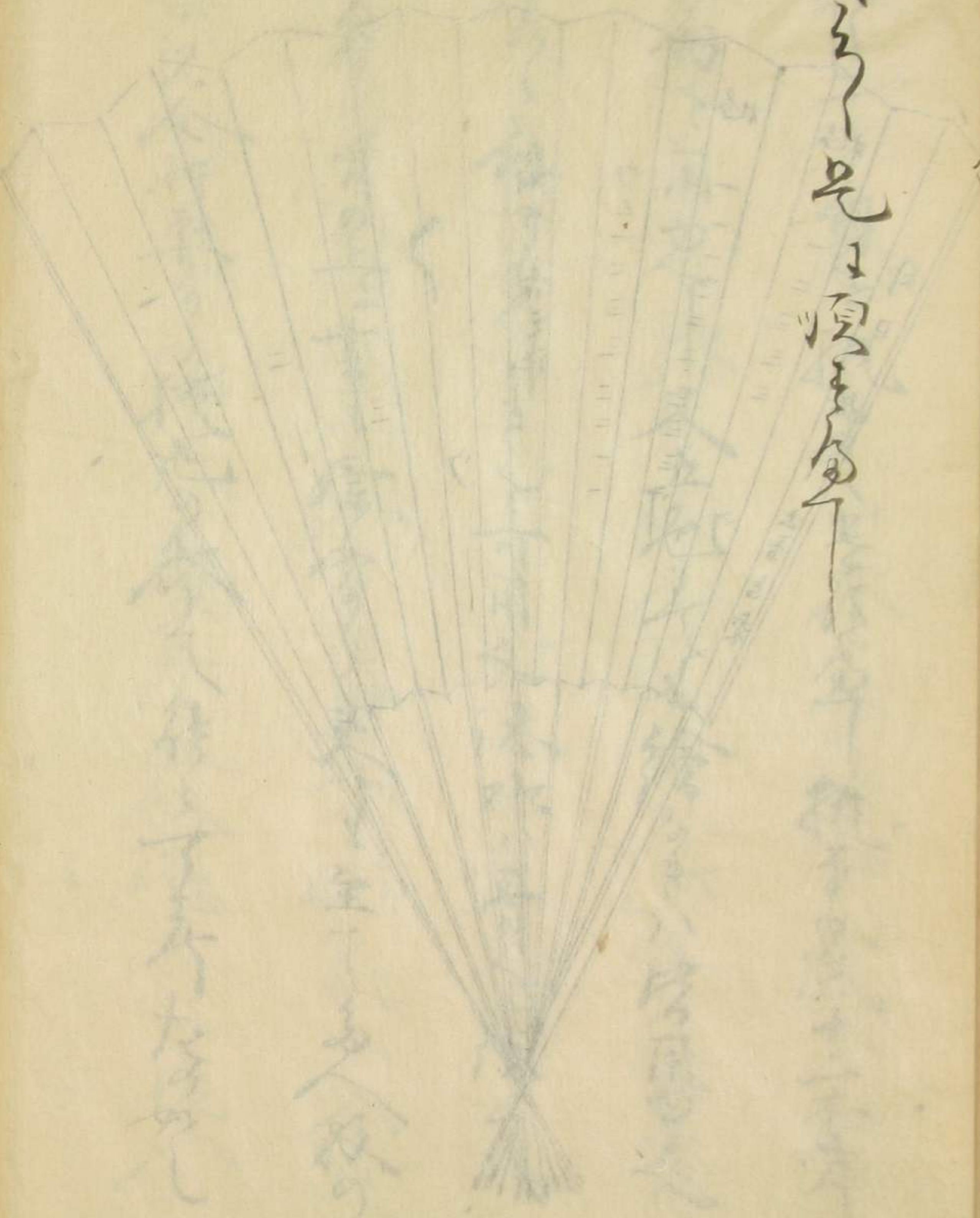
二 一 一 一 右同

三 一 一 一 右同

如して扇を執るを其の骨を執るは十二本骨
 の扇を用也又五色を以て繪するは皆用也之
 骨を以て扇の骨と云ふは骨を除去し
 たる骨の上の書と云ふは夫れ至て多人の
 叶はる所を以て行也の表を以て行て了るなり



きりぎりすのうた



琴玉香

曲

香二種

琴

包内包試

松

右同り

右試法より出香五包了十包と包内

五色の中に入つてくゝ名乗成しと申付物と云ふ

其外左の如く一太江の表へ往と尋左の

琴玉香上江

松琴松琴松琴

琴

松

名

琴琴松松琴松

二

名

松松松松松松

叶

香四月日

出香名乗

まうくそは頂と云

琴の音と春の花と云ふ

いつまの音と云ふと云ふ

右の歌のまうくそは頂と云

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

琴王香之記

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

其香芬烈... 乃本城... 乃本城...

巻一

五色紙

右試紙一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

書付出も入れもすめり二種つとせし札一枚

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

東

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

西

三三〇 後八

南とん

一二〇 後八

北とん

左礼をるるも用か多し 江原を各と中央

書後の字の下は歌と書入各南の人の歌

二頁と書多し 又始中央と九方の書乃内

中央南の後南の人の歌の上向斗書中央

の南後斗南の人の下向と書多し

初後共南の人の歌の上の向二句と書

て書入歌左の

東

月と日とまたの出る方々
御夕人の折るを

西

秋風も入日と空の後のまき
長ハ面うまらあ

南

玉章と待らん里の妹
こよよ初冬のそ

北

おきも冬の子
閑なるたき

中央

昔より都を免るは里
ちく我國のうら中

秋風の表へ能とる左

五方香之化

二二三中央一三二南

二二三中央一三二西

昔より都多々を六里ハ
外凡し入日の字々録の事

全

札各 札各

二二三中央一三二南

昔より都多々を六里ハ
外凡し入日の字々録の事

月日

出香 名乗

まろく七ノ順も全

又一問ありたのし

香
五種

東

五包の徳内一色試

西

右同行

南

右回り

北

右回り

中央

一色休中試合

右試合く、東西南北之色つたなりと結

合結多し打交始り一結は元中其外

始り

東

西

南

北

始り多し考但始り結より香取多しあり

と申す時多しといふ事多しとも用か

此香一掃入心... 此香一掃入心... 此香一掃入心...

此香一掃入心... 此香一掃入心...

此香一掃入心... 此香一掃入心... 此香一掃入心...

後面洗標所製
住吉香

此香四種... 此香四種... 此香四種...

此香四種... 此香四種... 此香四種...

此香四種... 此香四種... 此香四種...

此香四種... 此香四種... 此香四種...

齊として

一色と法を成

右十柱香のそとに從て先初より一二三と三色除
て残る包は各香と加く七色すしてお支炬
出さる年一二三の丸三枚のけ残れ二枚つ
くお支炬の中は十柱香のそとに初七色すして

残り一二三三色の丸お支て一包丸す年一始の
香はすくくしてれお支炬の中は各香と後丸
と先は開き年一後二種の本香と先は開き丸
を海軍の年一其計は年一各人一人歌り而
と言ふ人一人一二三の数の文字を各人一人

住吉香之元

一ウニニ一ニニ

名
雪竹

一ニニウ一ウニ

我々もやうなものを
飛石の氏へかへ

名
古松

一ニニウ一ニニ

我々も

五

二月日

出香 名集

まろく一乞上噴き金

右は地香

後西院楳御時御身乃有之式

枕巻工夫有金一又歌五文字七文字不出時

ハ記原の真字分一頁書金

三吉香之記
八五期之通字等一頁書之

御井引上天香合十一人御出天香合

本丸香合 祇園新御出香合

古くは丹波守合 出香 名来

三千年香

五種香

一色保長

二色保同

三色保同

四

四包休文

五

五包休文

右一二三四五十六包
五其教合十五種と
記録法極の本考と先
右一二三四五十六包
五其教合十五種と
記録法極の本考と先

本考合不函不書又歌一句
教下五分の五文字七
其外の何句何句
香を不遠すて一句

二行よ書年一 紙記の面を待てり

左のより中何より上書に候なり

三百年のあつての祝のとき
花より春のまをり候なり

三千年香記

五三四四三五四五
一五三四五二二
三百年のあつての祝のとき
花より春のまをり候なり

名 五三四四三五四五 三百年のあつての祝のとき 一頁全

名 五三四 五四五 三百年のあつての祝のとき 一頁十

月日 出香 名乗

江原之項を年

